

伝統・経験の継承と機械化の取り組みによる農業経営 (株式会社 アグリヒルズ)

<法人の概要>

所在地：福島県会津若松市

設立：平成 25 年 6 月

資本金：100 万円

売上高：700 万円（平成 27 年）

役員：3 名（うち農作業従事 1 名）

従業員数：2 名、うち農業従事者 2 名

経営面積：3.3ha 営農作物：きゅうり、ミニトマト、キャベツ、レタス等

農業開始時期：26 年 4 月



美味しい野菜を作るための土づくり



農場の皆さん

<農業参入に至った経緯・動機>

当社（株式会社アグリヒルズ）を起業した親会社（株式会社ミンナノチカラ）は、企業研修や求職者職業訓練事業等の人材育成を本業とする企業ですが、研修生から寄せられた「農業を学べる場所がほしい」との要望に応え、研修カリキュラムに農業人材の育成コースを開設し、平成 24 年に法人として農業参入しました。

その後、平成 25 年に農業に特化した法人である株式会社アグリヒルズを立ち上げ、平成 26 年に農地の権利を取得しました。

<農業参入することを決めてから営農開始まで>

農地の確保は、様々な者へお願いに回り、人づてや農業委員会への相談により貸借で行いました。

作物の決定については、市場や風土の他、大量少品種栽培と機械化による生産効率アップできる品目を選択しました。

機械・施設の導入に当たっては、土地利用型栽培できゅうりがピーク時にも効率的に栽培できるような機械を会津農林事務所及びメーカーと相談の上、福島県の土地利用型栽培のモデルとなるよう補助制度を利用して導入しました。

参入することを決めてから営農開始までの準備期間は、約 3 か月で行いました。

<営農開始から現在まで>

社員の中には農作業経験があった者もありますが、いずれも非農家出身であり、栽培技術については地域の農業者の方々から指導を受けながら、社内にノウハウを蓄積させています。

また、一般的に畑作は腰を曲げて行う作業が多いため、作業者の疲労を軽減し作業時間を短縮化する観点から、機械化可能な作業は機械化に取り組んでいます。その結果、キャベツ、レタス、白菜等を大規模に栽培することが可能となりました。

収穫した作物については、親会社を通じて市場や直売所、スーパー等へ販売しています。

<今後の農業経営の展開方向>

将来的には近隣のまとまった農地を集積し、10 ha程度まで規模拡大したいと考えています。また、障がい者雇用も可能なミニトマトの栽培施設を整備し、農福連携による生産および雇用の拡大を目指しています。

<今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス>

農業は、地域（集落）との共生が大変重要なことです。企業の効率性・生産性と社会的役割の両立が必要となります。



地域の農業者から栽培技術を学ぶ



収穫したきゅうり